

この学校の名物に
最近新たに加わったものがある

キモカスvs クール系アイドル

前編



はあ……..
ホント綺麗だよ
なあ……

なんか完成
された美って感じが
する……

俺達と同年には
見えねえよマジで

サ……

ササ
ササ



男子生徒たちの視線は
クラスの片隅に向けられている

そこには夕日に照らされながら
物憂げに外を眺めている、とある
女子生徒の姿があった

まさに女神の
ようってああいうのを
いうのかもな……

はあ……ホント
綺麗だよな、伊織……



ていつかこの間の
雑誌見たか？

月明かりをバックに
挑発するような視線
俺しびれちまったよ……

ふう……

普段からクールな
タイプだと思ってたけど

ああいう熱い感じにも
なれるんだな……

この学校の名物に
最近新たに加わったものがある

それが現在学生アイドル
伊織渚の存在だった

艶めかしい艶髪に端正な顔
きめ細やかな肌にしなやかな指

メリハリの付いたボディライン

きわめて整った容姿に
どこかつかみどころのない雰囲気
で魅力を振りまく渚

そんな渚がアイドルとして
活動し始めて成功しない筈がなく

渚は一気にアイドル業界で
頭角を現し始めていた



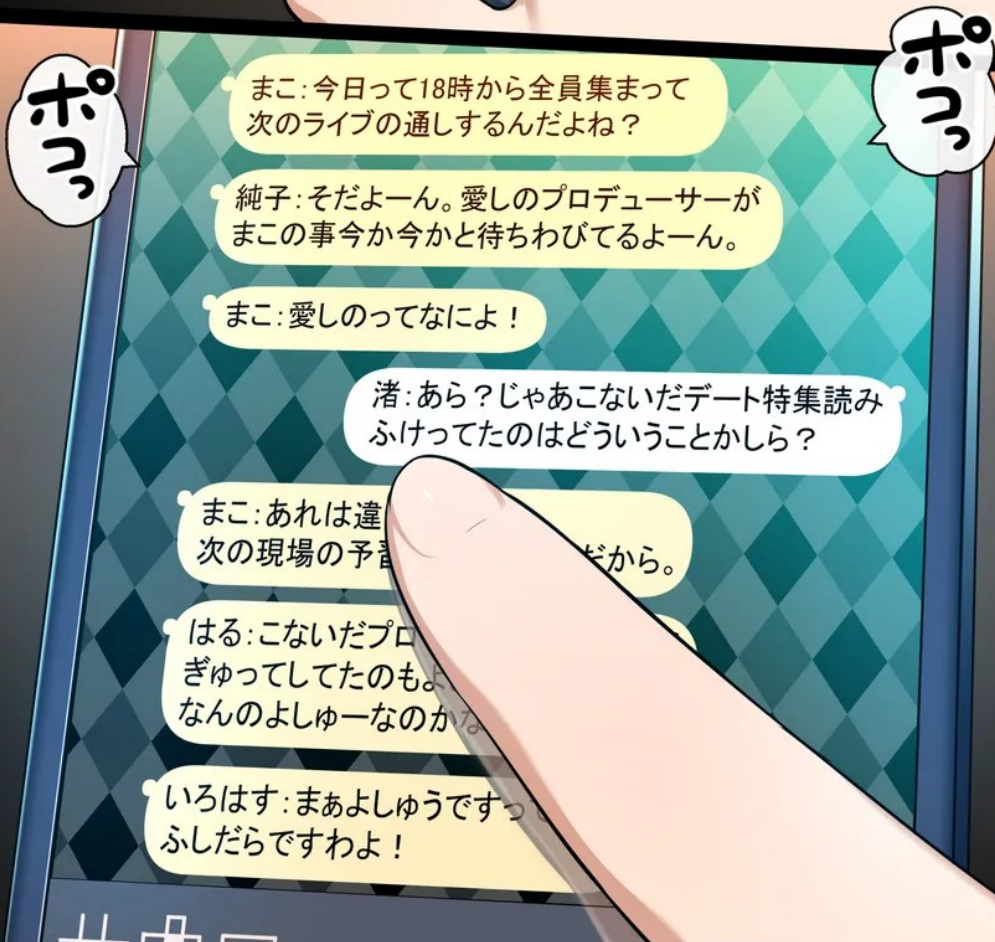
そんなトップアイドル街道
まっしぐらな渚のスマホが
震える



そこには、チャットアプリの
グループチャット画面が映し
出されていた

次々とチャット画面を
流れていく会話

美女だ神秘的だと持て囃されては
いても、まだまだ自分は未成熟の女だと
いう自覚は持ち合わせていた



まこ: 今日って18時から全員集まって
次のライブの通しするんだよね?

純子: そだよーん。愛しのプロデューサーが
まこの事今か今かと待ちわびてるよーん。

まこ: 愛しのってなによ!

渚: あら? じゃあこないだデート特集読み
ふけてたのはどういうことかしら?

まこ: あれは違
次の現場の予告だから。

はる: こないだプロ
ぎゅってしてたのも
なんのよしゅーなのかな

いろはす: まあよしゅうですっ
ふしだらですわよ!

だからこそ、渚は日々努力を怠らない。
自分が生娘という自覚をバネに、レッスンや自分
磨き、アイドルとしての活動に全力を費やすのだ

しかし、そうは言っても
渚もまだ年頃の女子

いくらアイドルとして基礎を固め
演技やプロポーションを研ぎ澄ませ
ても、渚の根本はまだ年相応



チャット見て感じる思いは
どこにでもある、ありふれた
女子学生のそれだった

そんな渚にとって
ありふれた日常が広がって
いたのがつい1時間前



はっはいつたあ！はいつたよ
なぎさちやあアッ！！

いやあッ！！！！
やああッ！！

どいてッ！
離してえッ！



は、初めて同士
いっしょにきもちよく
なろうねッ！！！！
んぢゅぐッ
うひひい！！！！

おねがいっ
お、お願いします！

下着が欲しいなら
あげるからッ！

おっぱいだっていつでも
見せてあげるからあッ！

むわっッ

ワキッ

ワキッ

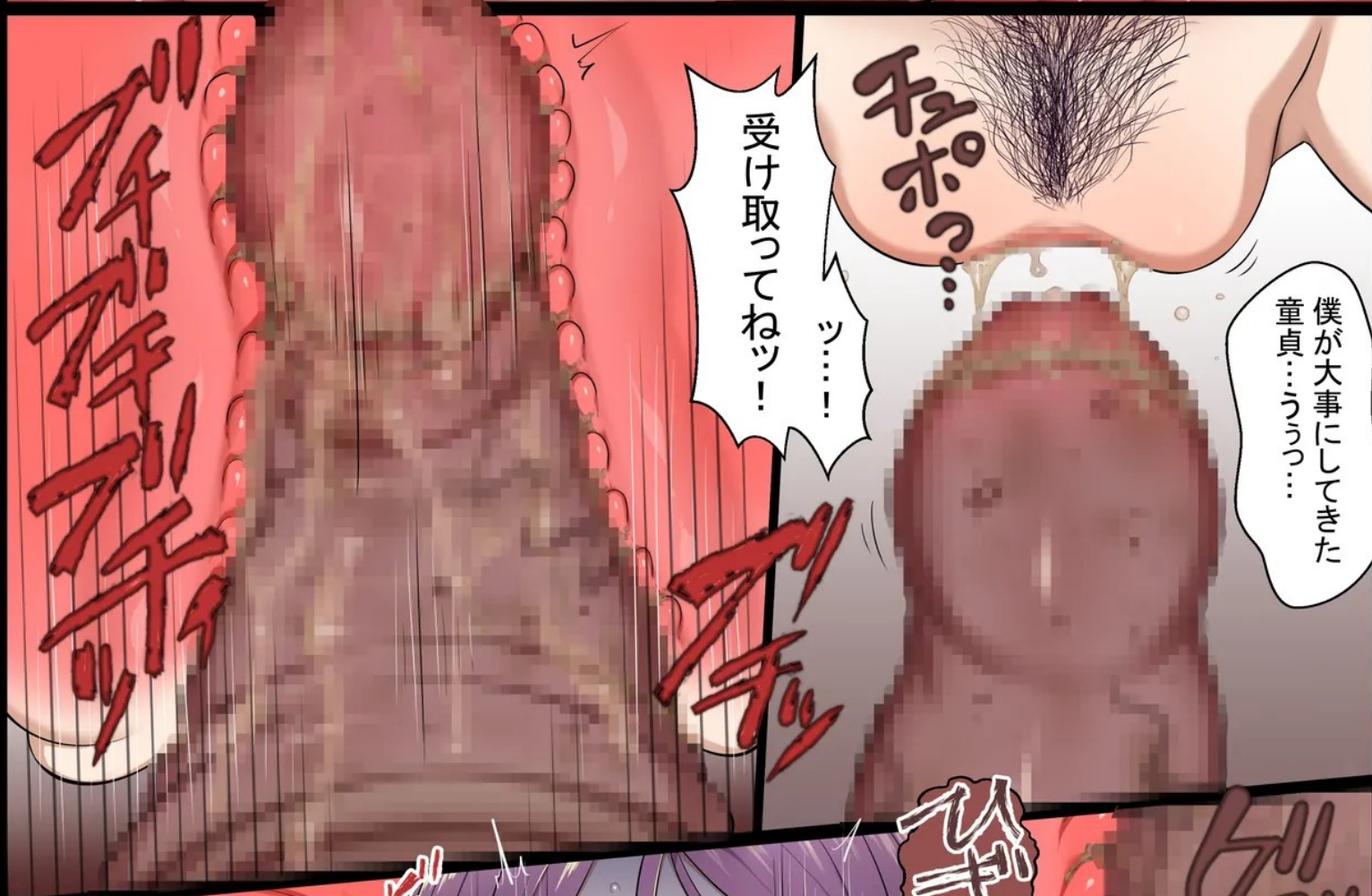
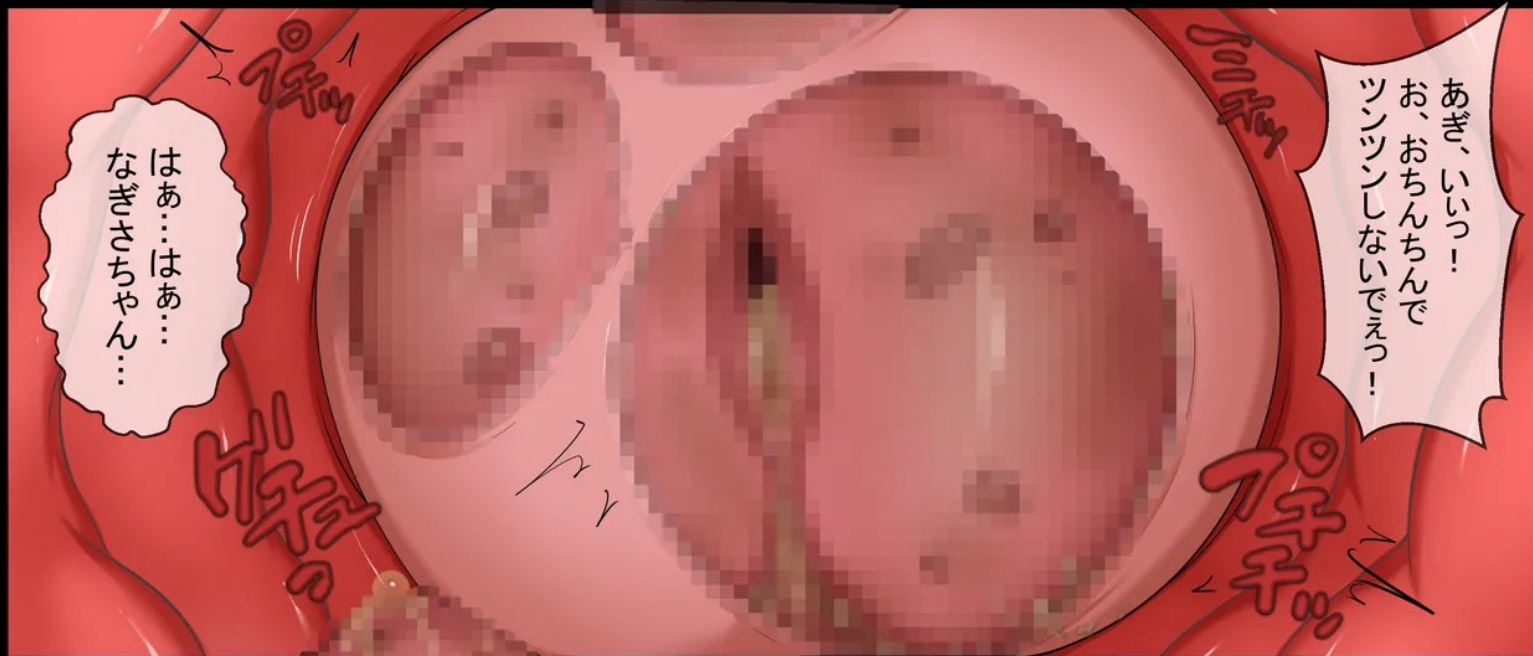


ふひっひひひっ！！
膜あったあッ！！！！

グニッ

ひいッ！！！！？

渚ちゃんのぷりぷり
おまんこガードあったあッ！



深々と渚のまんこに
突き刺さった包茎ちんぽ

あ…ああ…

ハア…

ハア…

そんな…

渚のきつきつ初物膣内で包皮を
剥きながら掘り進み、処女膜を破ったと
同時にその亀頭を膣内に擦りつけた

ギョッ…

ギョッ…

包皮内で熟成された臭っさい
チンカスが、膣ひだの隙間深くに
ぐちゅぐちゅと刷り込まれていく

かっは…

やった…やったあ
んふふ…♡

（ぎゅっ）…

どうして私の
はじめてが、こんな…

そんな女として終わってしまう
様な初体験をさせられた渚は

現実逃避の代わりとばかりに
つい一時間前の事を思い出していた

ギョッ…

ギョッ…

ギョッ…

ギョッ…

ホームルームも終わり
プロデューサーやアイドルの仲間が待つ
事務所へ向おうと下駄箱を開けた時
渚は目を疑った

うそっ…

そんな…!?

本来そこにあつたはずの
海の底のような深い藍の
輝きを放つネックレス

それが忽然と姿を消していたのだ

普段は肌身離さずカバンに
入れて持ち歩いているのだが

しかもそれはプロデューサー
からの贈り物で

その日に限っては、抜き打ちの
持ち物検査が行われていたので
急遽下駄箱へ避難させていたのだ

渚がライブで初めて
成功を収めた日にプレゼントされた
思い出のネックレスだった

だが、いくら探しても
見つからない

行き着いた結論は…

用務員室

ホッソッソッソッ

…落とし物として
届けられてないか

見に行くしか
ないわよね…

用務員室…

グッ

その言葉を発した渚の声色は
明らかに沈んでいた。ネックレスの
件も原因ではあるのだが

その理由の大半は
用務員室の主にある

そっ…

この学校の用務員は
学内限定で渚と同じくらい
知名度があった

しかしその知名度は、渚に向けられる
感情とは間逆の感情、つまり悪い意味で
有名という奴だった

名は「池沼ゆうた」という

ズ…

ズ…

コネで用務員として雇われたこの男
不細工チビデブハゲという4大キモ男要素に
加えて、えげつない体臭に滑舌の悪い口調

極め付けは、女子生徒達に
対するセクハラじみた発言の
数々と、よくもまあここまで生理的に
無理な男になれたものだ

逆に感心してしまうほど
男としてオワっていた

……

…考えても
仕方ないわね

グッ

職業柄、渚はそんな
男にも最初の内は優しく
接していたのだが

すいません
落し物…

ガッ
ラッ

ないとわかったら
すぐに帰ればいい
だけだし…

すいません
落し物：

股間をもそもぞといじりながら
池沼がぶちやぶちやとしやぶつてゐるのは
見間違へるはずもない

プロデューサーからもらった
思い出のネックレス

池沼がぶちやぶちやとしやぶつっているのは
見間違えるはずもない

その動揺は、池沼の手が渚に迫っている事への反応を遅らせるには十分



は...あ？

そこからは
あつという間だった

渚に迫っている事への反応を
遅らせるには十分



クッ
クッ

きゃっ

もーあー



なっ

クッ
クッ



ひっ!?

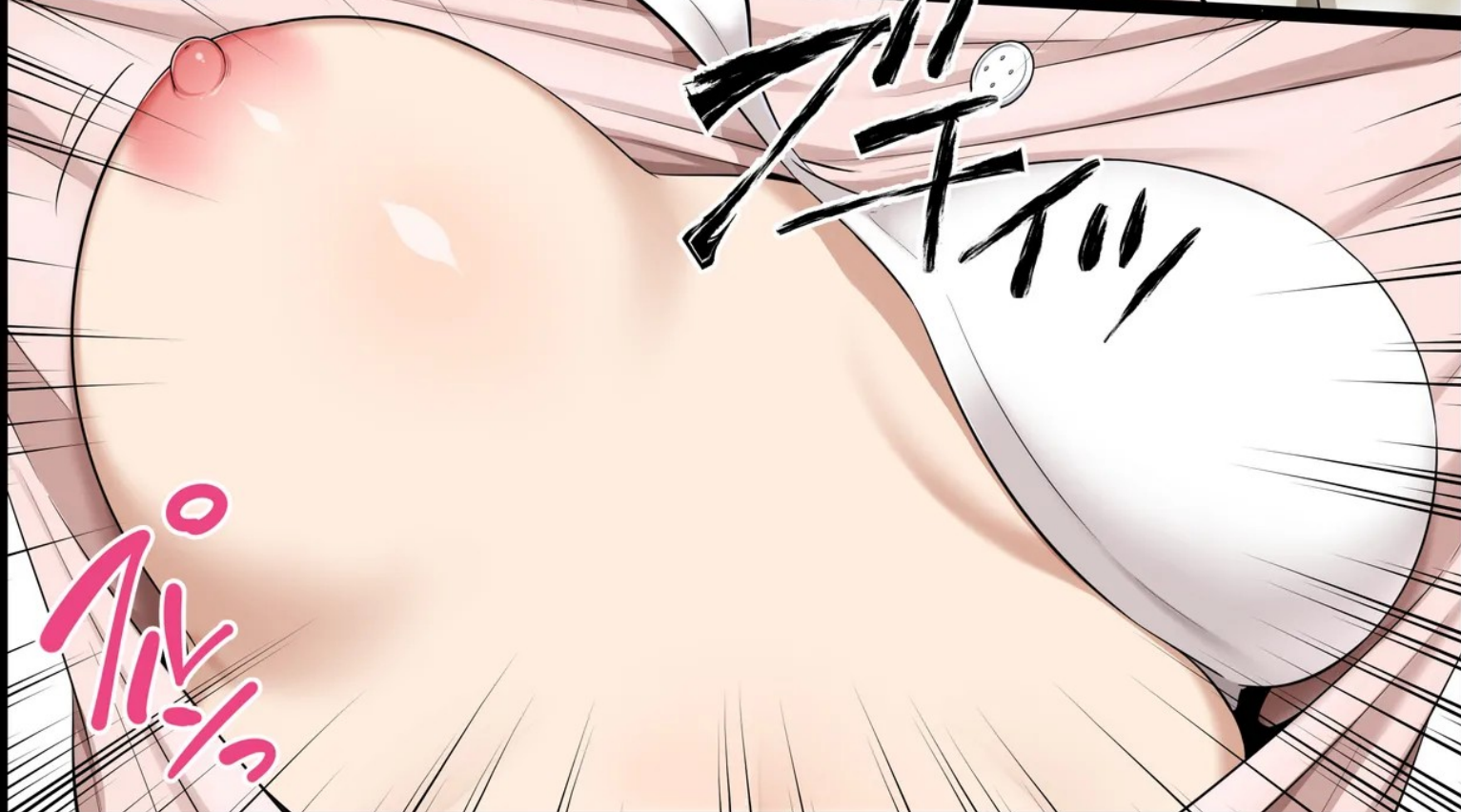
クッ
クッ

むわっ

みるみるうちに渚は
備え付けの寝汗まみれ垢まみれの
布団に押し倒され

シャツのボタンを
力任せに引きちぎられた

クッ
クッ



クッ
クッ
クッ

クッ
クッ
クッ

清潔感のある白いブラを
ちぎるように剥ぎ取った池沼は

いやあつ！
離しッ

はがアツ！？

ファン垂涎の現役アイドル
生ばい乳首に飛びつくように
吸い付く

あッあぁ…

初めて男に乳房を見られ
初めて胸を弄ばれた

ひっなにして…

にゅぽっ

ふっ…ふううっ…

なぎさのおまんまん
きゆうきゆう締め付けてきて
離してくれないよお…

おね、がい…ぬいてえ…
ぬいてちようだ…い…いまなら
だれにもいわない、からあ…

いぎいぎッ…

むき出しになった肌に吸い付かれ
身体中に赤黒いキスマークを点々とつけられた
それも、自分が一番忌み嫌っていたキモ男に

その後伊織渚の純潔は、キモカスクソヤバ妄想
癖持ちストーカー中年の蒸れ蒸れ熟成チンカス
包茎ちんぽによつてあつてあつてなく食い散らされ
ぴっちり閉じた新品まんこは、一瞬で最悪の
処女喪失をした経歴持ちの中古穴にされて
しまったのだ

ギョッ
ギョッ

なぎさもぼくとずっと
つながりたかったんだね…
ぢゅっふふ

ね、なぎさ…❤

ひみつにするからあ…
すきなこと、してあげる
から…あ…ひくっ…

うんうん…そうだね…
恋人ができましたなんて
恥ずかしいよね…

渚の心を罪悪感と後悔が埋め尽くす
本来なら自身の想いとともに彼に捧げたかった
それが、たった十数分で身も心も台無しにされて
しまったのだ

だれにも言わないよ…ぼくたちの
関係はふたりだけのひみちゅ…
ふひゅひゅ！

ち、が…おねがい
おねがいよお…

(ごめんなさ、い…
Pさん…私の初めて…
取られちゃった…)

年頃の女子高生が大きなシヨックを
受けるもの無理はないことだった

だが、渚にはまだ処女と同様
いや、それ以上に大切にしてきた
純潔があった

クチビルである

キスしたいアイドル部門
一位にも選ばれた、渚自慢の
チャームポイント

は…うっ…

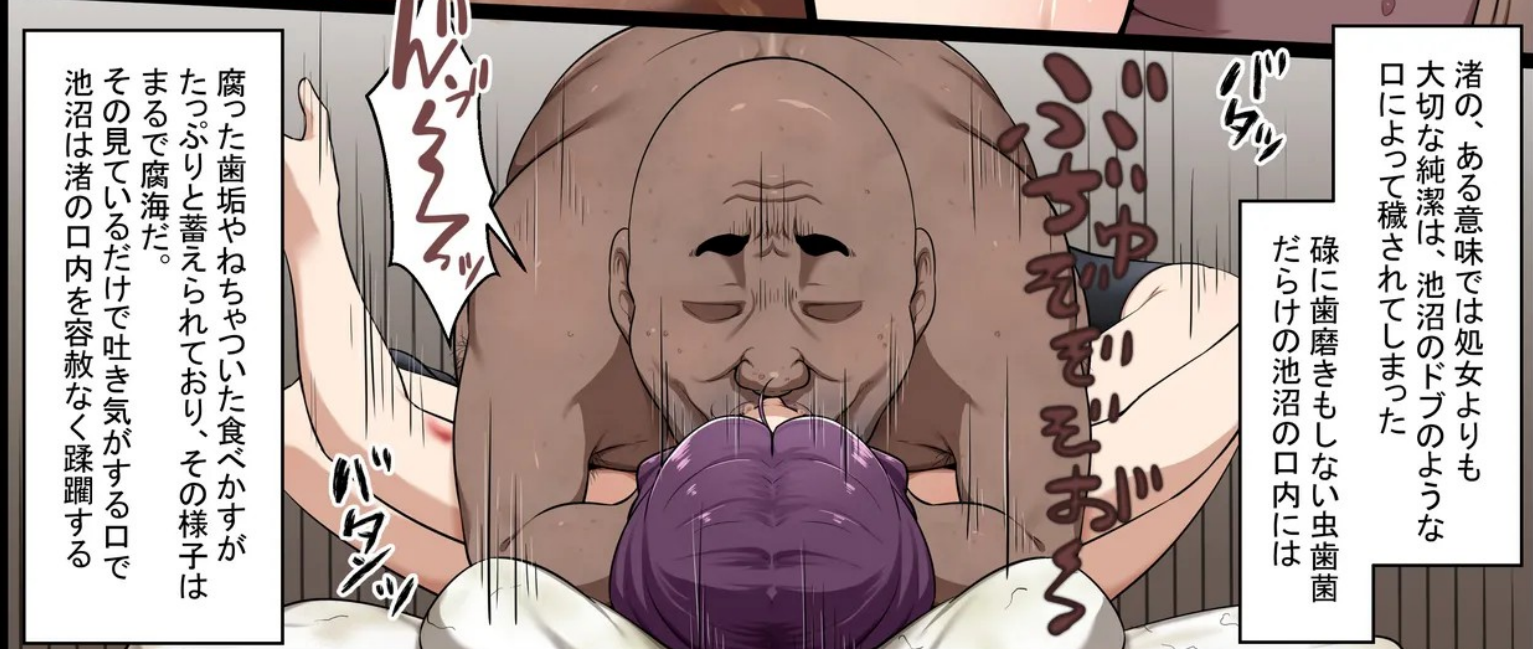
ハア…

ぬいて…おちんちん
…ぬいてえ…

何度もPに褒められた
自身の体の中で一番好きな
部位でもある



唇を覆うグロスの上から塗りたくられる油
差し込まれた舌が歯茎をなぞり、白い舌垢が
渚の純白の歯にまぶされていく。
舌を引っ張り出され、口内の唾液を嚙り取られ



渚の、ある意味では処女よりも
大切な純潔は、池沼のドブのような
口によって穢されてしまった

碌に歯磨きもしない虫歯菌
だらけの池沼の口内には

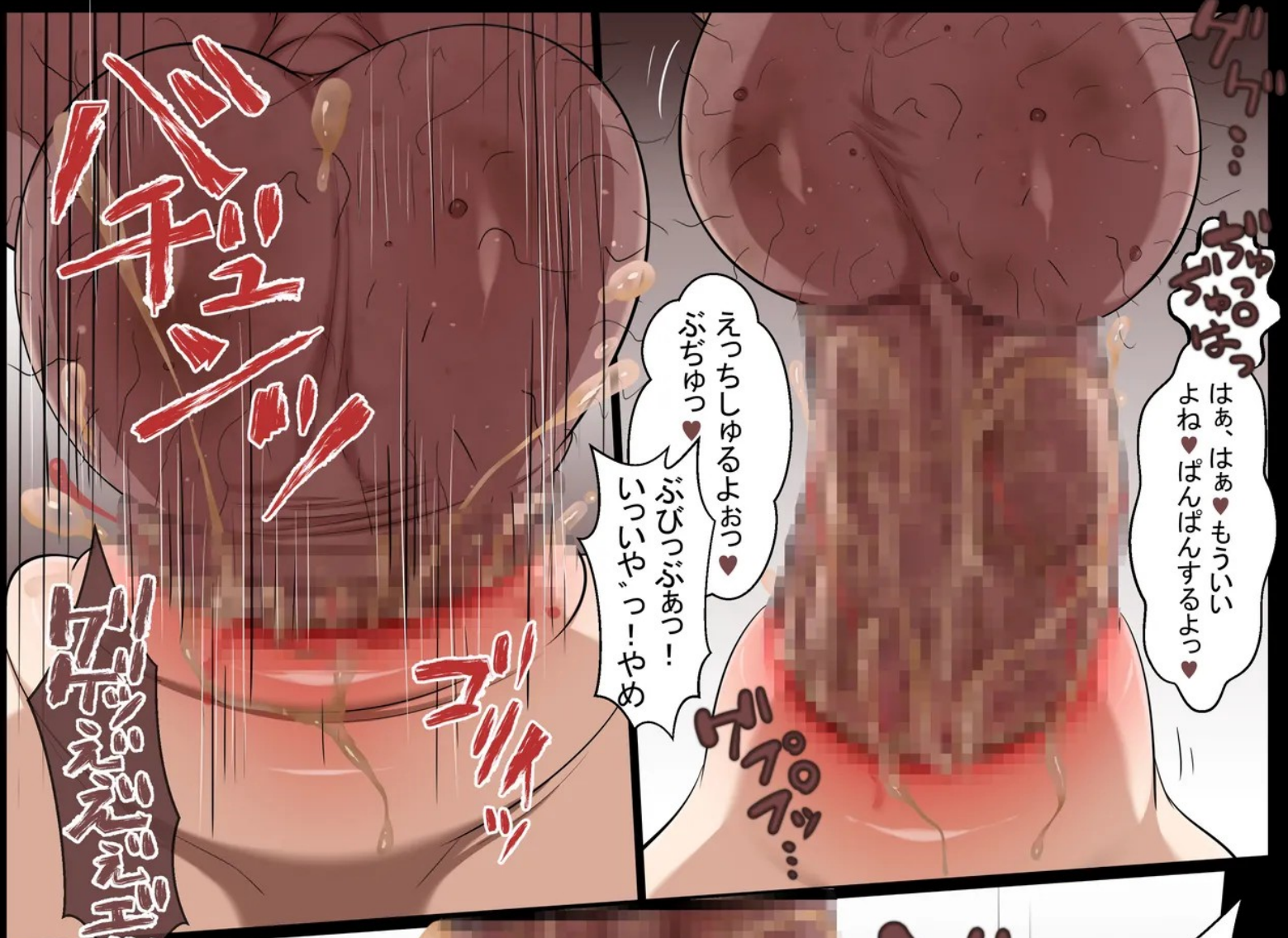
腐った歯垢やねちゃついた食べかすが
たつぷりと蓄えられており、その様子は
まるで腐海だ。
その見ているだけで吐き気がする口で
池沼は渚の口内を容赦なく蹂躪する



涙と鼻水でぐちゃぐちゃになりながら
プライドすら投げ捨てて必死に懇願する渚
唇を食られながら半狂乱となつて暴れる渚の
ブスキス顔は、普段のセクシーでクールな様子
からはとても想像できないほど酷く醜い

しかし渚にはもはや自身のイメージ
などに気を配る余裕はない
本能が発する嫌悪感に身を任せ、ただ
じたばた暴れるしか出来なかった





はあ、はあ♥もういい
よね♥ぱんぱんするよう♥

えっちしめるよおっ♥
ぶぢゅっ♥
ぶびっぶあっ!!
いっいっ...やめ

はあ、はあ♥もういい
よね♥ぱんぱんするよう♥



あゝゝゝ♥きもちいい♥
きもちいいよおなきさあ♥ううっ♥
あうゝゝゝゝ♥

ぎっ...いっ...あっ...!!
うあっ...ううが...ないでっ...!!
まだいだいの...おっ...!!



んぶつはあぶぶうっ！……！
あゝぎもちいいいい♡

なぎさのおまんこぎもちいい♡
あつでちゃうっ♡ちんちんから
びゅっびゅっでちゃうううっ♡

日頃から渚の盗撮写真でオナニーばかりして
生殖力ばかり鍛えられた池沼。金玉の中には
渚の受精卵を今か今かと犯そうと待ちわびた
池沼の劣等遺伝子を含んだ精子がうじゃうじやと
蠢きあっていた

ばひっはっひいっ！

おねがっそと、出し

うゝゝゝ！でるっ……！
びゅっびゅでるっ……！

対する渚は、危険日ドストライクの日だった
今もぷりぷり排出されている卵子達のいる子宮に
もし仮に精子達が流し込まれてきたとしたら
受精妊娠着床幸せポテ腹の未来が確定してしまう

なぎさのあかちゃんのへやにっ！
ぼくとのしあわせあかちゃん
うえつけるっ！うっうっうっ！

やっつっ！いやあっつ！
にんしんいやっつ！……！
あゝがちゃんいやあつ！
あゝあゝあアゝあ！



人気絶頂アイドルの子宮に
歳最底辺キモ男のザーメンがみゆくみゆくと注がれ

菌のつまった性汁が
健康的だった子宮をじくじくと
穢していき、渚を女として
終わらせようとする

ファンがこの事を知ったなら
きっと卒倒ものだろう

とめどなく流し込まれる
唾液は、渚の喉に絡みつきのながら
飲み込まれ

カスマミれの唾液は、その強烈な
エグみと生臭さで、アイドルとして
大切な生命線である声帯を容赦なく
ズタズタにしていく



はあ…はあ…
きもちよかったよ

なぐちん💖

ストーカー用務員の不潔極まりない汚辱によって台無しにされてしまった

長い種付け射精が終わり
汚いちんぽが汚い音を立てて
引き抜かれる

うっっっっ
ひっどいっ

...

ひどい…わ…
わたしのはじめてえ…

素つ頓狂な声を上げた渚の
まんこは、ぽっかりと池沼の
ちんぽの太さに広がっていた

その穴から、どろどろと濁った泥の様な精液が溢れ出してくる

汚液は渚の愛液と血液と混ざり合つて
精臭香るブレンドザーメンとなつて布団の
シーツの上に滴り落ちていく



あのひとが、きれいな
くちびるだって

グググ...

ほめてくれた
くちびる...こんなっ...



オロオロオロオロ



う...げ...

う...あ...

なか...

だされて...

ヌチュ...

ググ...

はひっ
ひいっ!?!

せ、精液ッ
にんしんッ妊娠
しちゃうっ!

ださ、出さなきゃッ

なぎさ、これみて♥

よく撮れてる
でしょ?♥

はあっっはあっっ
こぼっっえ...?

『うっ~~~~~でるっ~~~~
びゅっびゅでるっ~~~~なぎさの
あかちゃんのへやにっ~~~~!』

ぼくとのしあわせ
あかちゃんうえつけるっ~~~~!
うっ~~~~うっ~~~~!』

『やっっ~~~~いやあっ~~~~!
にんしんいやっ~~~~あがちゃんい
やあ~~~~あああアあ!』



『んぶおおおお
おおおおつっ!』

なぎさのしあわせそうな
顔までばっちり撮れてて
ホントによかったよお♥

ぼくとなぎさの
初めてのえっちだもんね♥

『ぶぶぶぶぶぶぶ
ぶぶぶぶぶぶぶ♥♥
』

『あ...おぶ...んぶ
...んぶぶう...』



これから
2人の思い出

は...ああ...

いっぱいいっぱいって
いかなきゃね、なぎさ♥



そ、そんな...っ！
けしっ おえ

ふんっ

ええ？こんなに
きれいに撮れてるのに
勿体無いよお

け、けして...！
おねがいだから...！

そっだあ！

せつかくだからヌイッタに
あげちゃおうよ♡

ス...



世の中の勘違いしてる
クソオタクにき、見せつけ
ちゃおっ♡

や...いや...！！
おねがいがさないでっ！



そうと決まれば...

● 眩く
日全てのアカウントに
& 音楽 & 私
nasumusi Ω tomoegozen
おちんちんランドに1000年ほ
って宿泊料をちんちんで払いた

ガッ
ガッ
ガッ





ね？
ねえ？

おねがぁ〜い♡

もはや滑稽を通り越して
無様なものとなっていた

精神をボロボロにされながらも
目の前の最悪を回避するために

アイドルとして使うはずだった
演技で、必死にちんこび雌懇願を
アホみたいな猫なで声でする渚の姿は

にや
る

ぬる
る

にや
る

ほっ本当！？

その代わり♡

!?

え〜？…しょうがないなあ♡
なぎさはホントに照れ屋さん
なんだから♡

もやあ〜…



は、ひっ…?

なゝぎさ♡

いっぱいーっばい
思い出作ろうね♡



これから僕のおうちで

ズ
ズ
ズ…

いやっ！離してええっ！
もう十分でしょう！いや
だつてばあっ！



時刻はすでに、最終下校時刻を過ぎていた
周りに人気はなく、渚の助けを求める掠れた
声など誰にも届かない。
未だ股の痛みで足腰が動かない渚を、池沼は
持前のパワーで引きずっていくのだった

